

## 趣 意 書

2011 年 3 月に発生した東日本大震災は、地震とそれに引き続く巨大津波によって多くの尊い命が奪われ、また、多くの被災者を生むとともに、福島第一原子力発電所の放射能漏れ事故によって、さらに多くの被災者が発生しました。震災の犠牲となられた方々に対し、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に、心からお見舞いを申し上げます。

さて、現代社会は多くの科学技術に支えられて発展を遂げてきています。ますます広がる社会活動の国際化の潮流の中で、科学技術におきましても日本が国際社会で中核的役割を担うべきことは申し上げるまでもありません。このような情勢の中、ナノサイエンス・ナノテクノロジーの学術的な根幹を扱う「微粒子と無機クラスターに関する国際シンポジウム」(International Symposium on Small Particles and Inorganic Clusters ; 以下、ISSPIC) の国際顧問委員会は、第 17 回シンポジウム(2014 年開催予定)を日本で開催することを去る 2010 年 12 月に決定しました。この決定を受けて発足した国内組織委員会では、開催の準備に着手しつつありました。ところが、2011 年 3 月の大震災により未曾有の事態に直面したことから、開催地の見直しを含めて ISSPIC 国際顧問委員会との間で慎重な議論を進めて参りました。ISSPIC 国際顧問委員会からは、日本での開催を是非とも実現して震災後の復興の契機の一つとして欲しいなど、温かい国際的支援、激励が寄せられました。一方、国内組織委員会においては、原発問題の解決をはじめ、今後の科学技術と社会との関わり方についての真摯な議論が繰り広げられている日本において、この国際シンポジウムを開催する意義は社会的・国際的にも極めて大きいとの意見集約がなされました。そこで、第 17 回シンポジウムを日本で開催するにあたり、皆様のご理解とご支援を頂きたく、開催の趣旨をご説明申し上げる次第です。

国際シンポジウムISSPICは、ナノスケールの微小な物質に関する研究成果を討論する場として 1976 年に発足し、現代のナノサイエンス、ナノテクノロジーを先導する学術集会として、最も権威のある会議に位置づけられています。例えば、サッカーボール型の炭素物質 $C_{60}$ の発見と大量合成という 1996 年ノーベル化学賞として結実した故Smalley教授らの研究成果も、本シンポジウムで最初に発表されました。第一線で活躍する研究者が二年に一度世界中から集い、ナノサイエンス、ナノテクノロジーの基礎から応用にわたる広範な問題を、物理学・化学・生命科学など分野の枠を超えて熱く討論し、情報を交換する場として認知されております。

本シンポジウムにおいて、日本は発足当初から重要な役割を果たしてまいりました。フランス・リヨン市で開催された第 1 回シンポジウムには、量子サイズ効果の理論を世界に先駆けて提唱された故 久保亮五先生(当時 東京大学)や、金属微粒子の合成

に取り組んでおられた故 上田良二先生（当時 名古屋大学）のグループなどの物理学者が参加し、ナノサイエンスの黎明期を牽引しました。その後、故 近藤保先生（当時 東京大学）、茅幸二先生（現 理化学研究所）などナノ物質科学を先導する化学者が参画し、物理学と化学が有機的に融合した国際シンポジウムへと発展させました。また、本シンポジウムは発足当初より欧米各地で開催されていましたが、1994年に欧米以外では初めて神戸において菅野暁先生（東京大学名誉教授）を実行委員長として開催されました。従来の200人規模に対して400人もの参加者を集め、この分野における日本人研究者の層の厚さと裾野の広さが世界に印象づけられました。またこのシンポジウムを契機として、国内では「超微粒子とクラスター懇談会」（現「ナノ学会」）が発足するなど、超微粒子やナノ物質の科学研究の活性化につながりました。その後のISSPICにおいても、毎回日本からは開催国に次ぐ多数が参加するなど、日本の積極的な貢献は国際的にも高く評価されています。

2014年の第17回シンポジウムは、日本開催としては20年ぶり、アジア開催としては2004年に中国・南京で開催された第12回シンポジウム以来10年ぶりという節目を迎えます。今回の大震災を契機として科学と技術のあり方が改めて問われる社会情勢において、ナノサイエンス・ナノテクノロジーが、従来の物質・材料科学の深化と発展に加えて、環境問題やエネルギー問題に対して何に取り組むべきかを真摯に議論し、新しい学問領域と産業技術の創出へと昇華させるまたとない機会と捉えております。また、その成果を日本から世界に向けて発信することによって、日本が自信と勇気を取り戻す一助となれば幸いと考えています。

以上、国際シンポジウムISSPICの理念と日本開催の意義を、是非ともご理解、ご賛同頂きたく心からお願い申し上げますとともに、何卒力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 記

国際会議名：第17回「微粒子と無機クラスターに関する国際シンポジウム」

(International Symposium on Small Particles and Inorganic Clusters ; ISSPIC)

開催期間：2014年9月7日（日）～12日（金）

開催地：九州大学医学部百年講堂（福岡市）

参加者：300名（海外150名、国内150名）程度

後援、協賛：日本化学会、日本物理学会、応用物理学会、ナノ学会、分子科学会、触媒学会、日本放射光学会、日本顕微鏡学会、表面科学会、日本磁気学会、真空協会、他（交渉中含む）を予定。

以上

2014年開催 第17回ISSPIC国内組織委員会

委員長 中嶋 敦（慶應義塾大学・教授）

共同委員長 寺寄 亨（九州大学・教授）